

もの言う牧師のエッセー 第124話

ソチ五輪

③「レジェンド」

ノルディックスキー・ジャンプ男子個人ラージヒルで、「レジェンド/伝説」と呼ばれる41歳の葛西紀明が、ついに銀メダルを獲得し、冬季五輪では日本人選手最年長の表彰台となった。1992年のアルベールビルオリンピックに19歳で初出場して以来、リレハンメル、長野、ソルトレイクシティ、トリノ、バンクーバー、ソチと史上最多計7回の5輪に連続出場。W杯個人戦で積み重ねた出場試合は1989年の初挑戦以来、443試合。日本男子選手最多の通算16勝を誇り、ジャンプの本場・欧州では絶大な人気を誇り「KAMIKAZE・KASAI」と慕われ、前回2010年のバンクーバー五輪競技終了後には、メダルを獲得したわけでもないのに海外数十人の記者による取材の輪ができたほどである。

しかし周知の通り、これまで彼は「悔しい思いばかりしてきた」。94～95年シーズンには着地で転倒し鎖骨を立て続けに2度折り、その時の恐怖を克服するのに10年を要した。98年の長野では直前に左足首を痛めメンバーから外れ、日本男子が団体金メダルを獲得して日本中が歓喜した光景は「吹雪と涙でかすんで見えた」。この度ついに偉業を達成、国に帰ってゆっくりするのかと思いきや「次は金です」と、早くも4年後を見据えつつ、自身はサッサとW杯参戦のために欧州へ向けて出発した。

なるほど「レジェンド」は現役で継続しているからこそ説得力がある。実は聖書には恐るべきレジェンドがいる。ずばり神であるキリストだ。今から約3500年前、預言者モーセは神と直接会ったが相手が誰だか良く分からず、「あなたの名は何ですか？」と聞いたことがある。すると神は、

「わたしは、『私はある。』という者である。」出エジプト3章14節、

と答えている。実は神には時間の概念が無いに等しい。あるのは「永遠の今」であり、時間はあくまで被造物である人間が造られた時点で人間に対して介在し始めたと言っても過言ではない。従って聖書の預言は数千年先の事であっても、過去形で書かれていたりする。キリストは決して2000年前に死んだ“やさ男”でもなければ、宗教や哲学や概念でもなく、実体のないお化けの類でもない。今ここに、そして永遠に存在し続ける「生きる伝説」そのものなのだ。そして彼は今日も全宇宙を管理し、働き続け、我々一人ひとりを愛して下さる。

